

不確定な矛盾の生成

- | | |
|----------------|--------|
| 1. 目的と方法：問題の位置 | 02 |
| 2. 矛盾 | 03- 04 |
| 3. 技術と制度 | 05- 07 |
| 4. 物々交換の開始 | 08- 11 |
| 5. 結論と課題 | 12 |

高原 利生 2014.10.25

目的と方法：問題の位置

方法：最小の概念（粒度、オブジェクト、矛盾）で
目的を達成する。

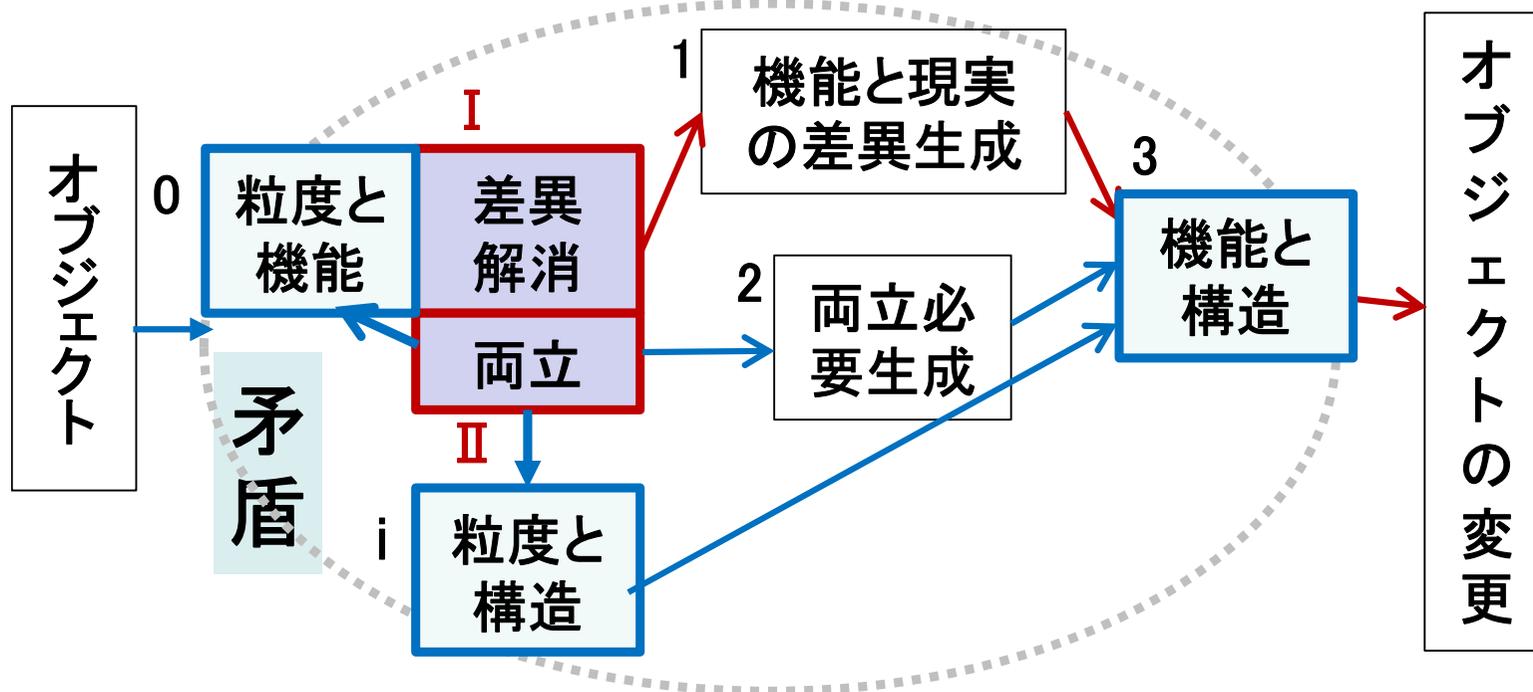
粒度＝事実の「大きさ」

オブジェクト＝事実モデルの単位＝存在、関係

矛盾＝最小の事実モデル＝「項－関係(運動)－項」

項はオブジェクトで存在,関係(運動)

矛盾という近似モデル



矛盾の生成と運動

矛盾の解はどう差異解消するか,両立するかを見付けること。
残る課題は、初めての**矛盾生成という解**を見付けること(入れ子)(もう一つの課題は、解の型の網羅)

初めての矛盾の生成の意味

何もないところから「項－関係－項」を作ること。
(エンジンの出力大と軽量化の矛盾はこれに該当しない。技術には初めての矛盾生成はない)

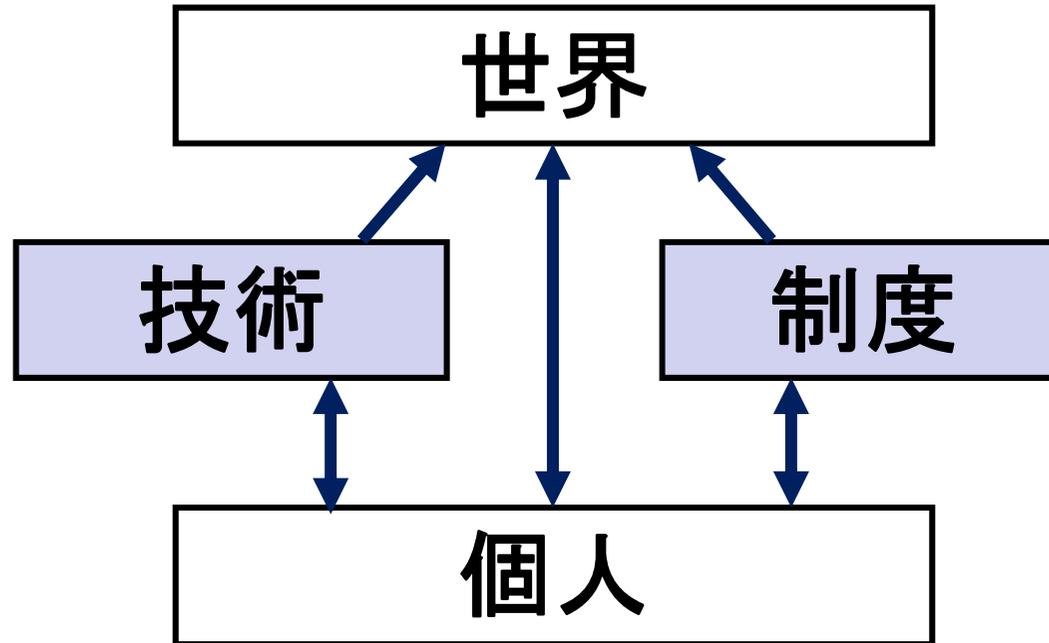
もう、制度ができているのだから、(技術と)制度の改良＝運動(関係)だけで良い？ しかし、

1. 人類以外では違うかも？

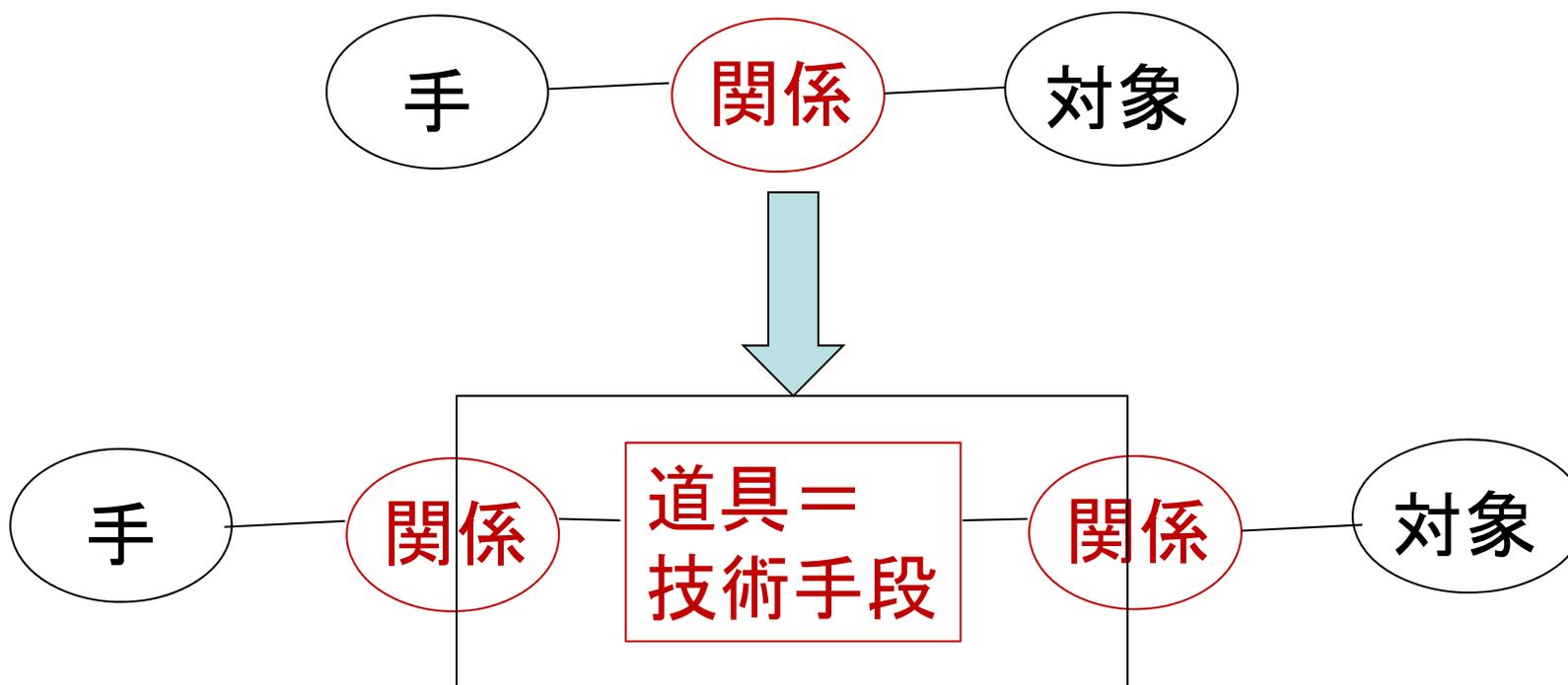
(技術と)制度以外の画期的な何かを産むかも？

2. 何もないところから「項－関係－項」を作る論理は分かっておきたい。

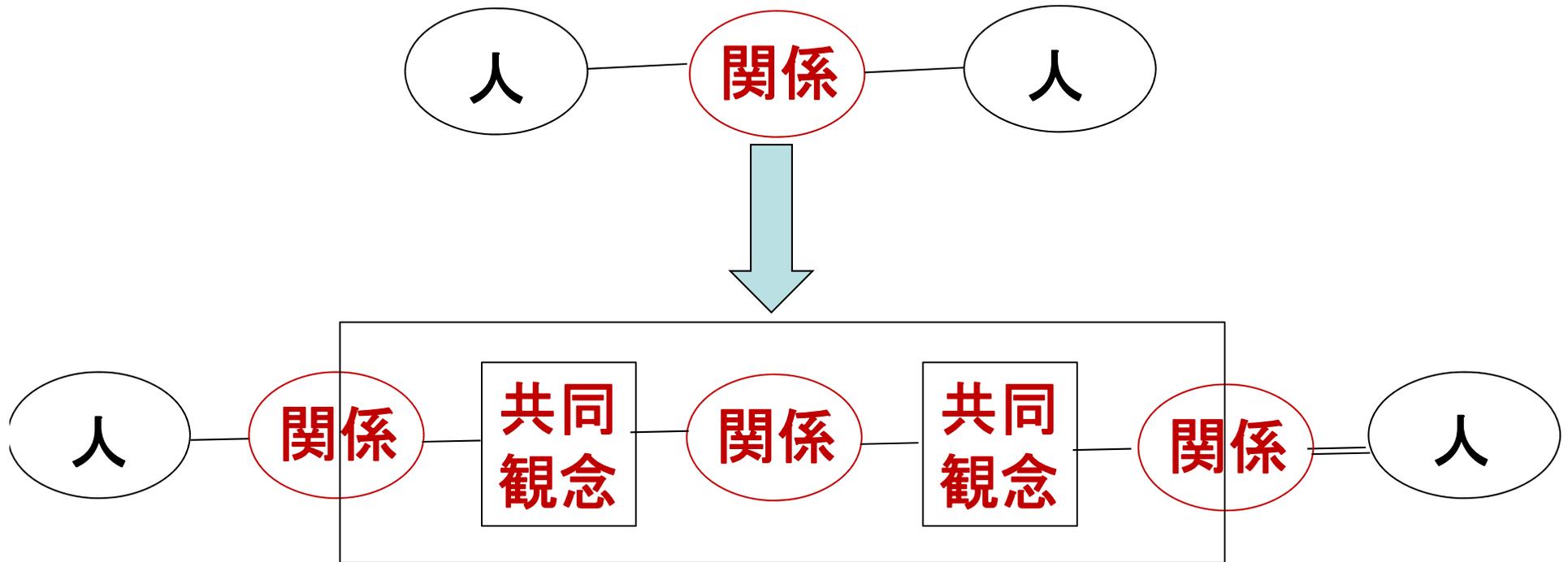
技術と制度



技術の開始は簡単 道具(技術手段)による媒介



制度の開始、矛盾生成 共同観念による媒介



制度の最初の矛盾生成は？

言葉も制度（物々交換とともに。ものと観念）

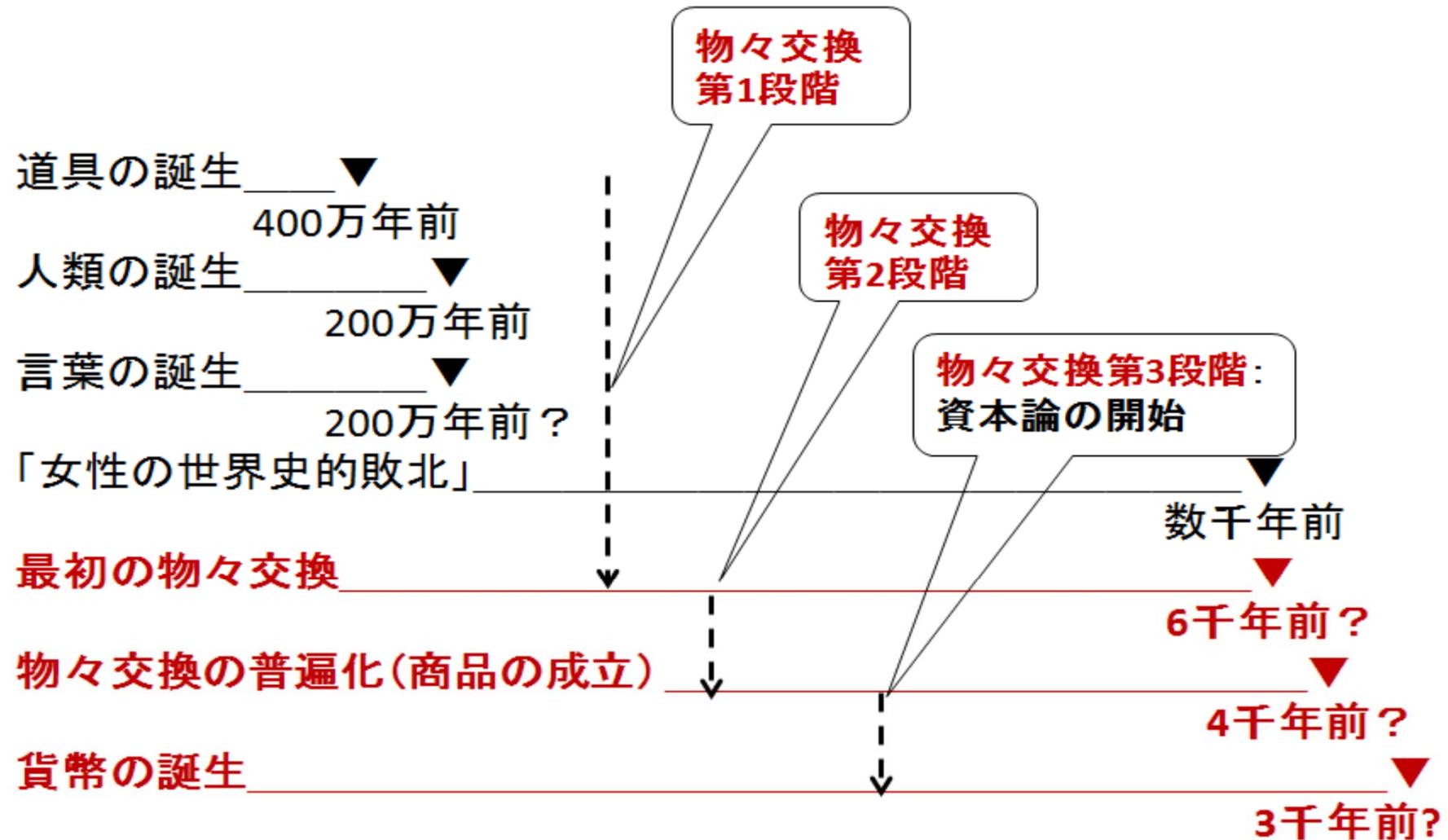
B,C.2000年、ウル・ナムム法典,ハンムラビ法典

中身：1. 相手に危害を加えないこと、2. 婚姻に関すること、3. 所有に関すること。

1 2は上からの取り決めであり簡単。

3のうち、物々交換開始は、道具、言葉の利用に比べて、桁違いの時間を要した。なぜか？

制度の最初の矛盾生成の例: 物々交換の歴史



制度の最初の矛盾生成は？

所有という概念が不備な状態で、自分の所有物のある量を相手に与え、相手も同じことを同時にする共同観念の生成。

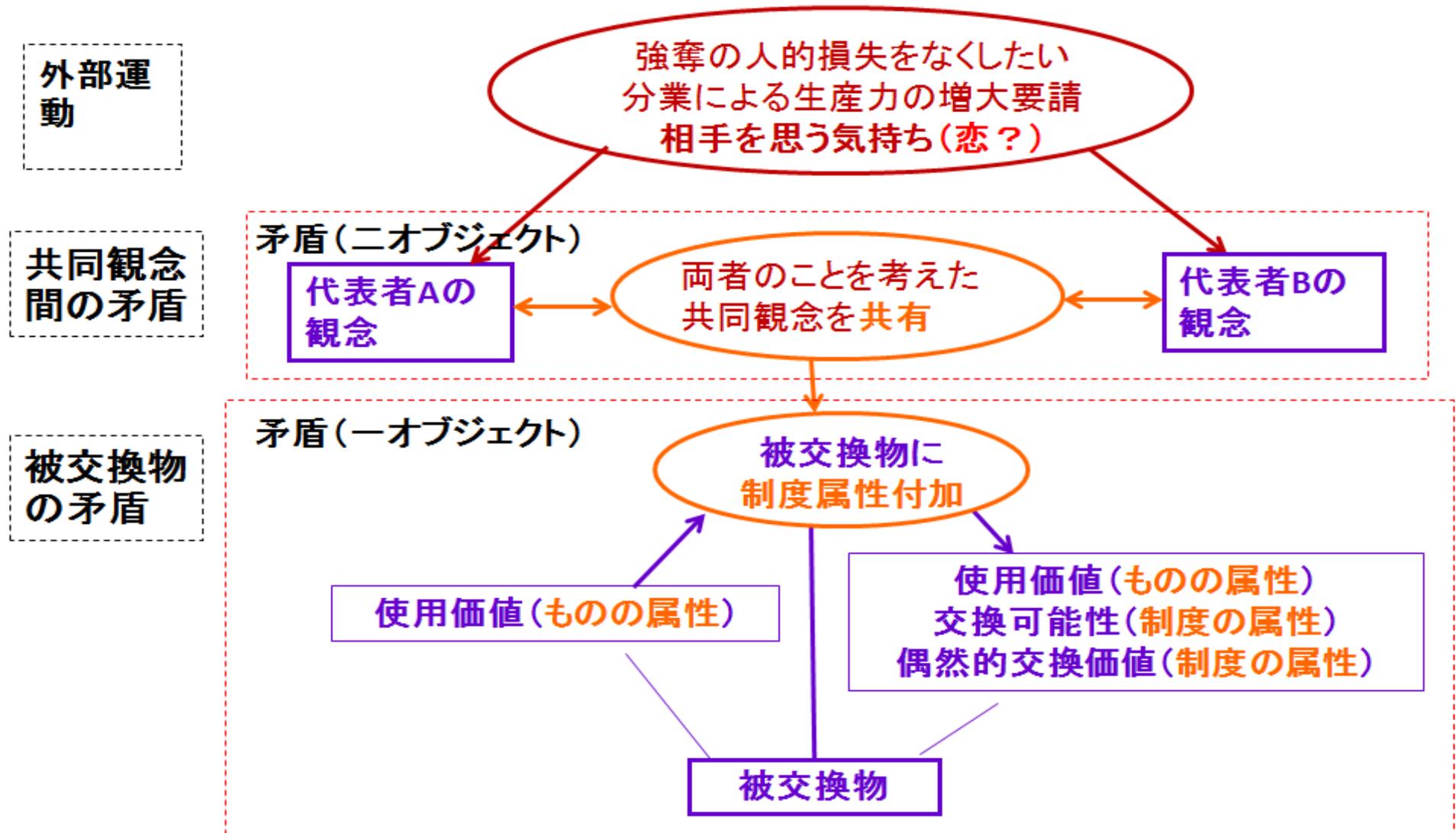
どのぐらいの量が相手の量に見合うかという判断も必要である。保管場所も異なるので、いつ、どこで交換するか、そこにどちらが行くのかも当時は困難な問題だった。

従来の一方向行為から相手のことも考慮した行為への改善を恋が作った。時間をかけて、変化蓄積、生拡大の好循環。

結果として種の生が拡大する生物進化と類似。

等価交換が、その後の人類の発展を可能にした。

物々交換の開始で起こったこと



結論と課題

オブジェクト、矛盾の正しい粒度設定と解が目的を達成。

矛盾生成の例として物々交換開始を検討した。

相手と観念を共有することを二人が決めることは難しい。

偶然の要素が多い。交換に成功した集団は繁栄し生き残る。生物的進化に似ている。

意識的な価値、論理向上、特に粒度拡大の努力必要。

謝辞

大阪学院大中川徹名誉教授、議論していただいた石崎徹氏に感謝する